

令和6年度第2回長浜市公共施設マネジメント推進委員会 会議要点録

- 1 日 時 令和6年9月25日（水） 14：30～16：10
- 2 場 所 長浜市役所5階 5-B会議室
- 3 出席者 ○委員（8人）
遠藤委員長、横山副委員長、持田委員、若岡委員、市川委員、藤田委員、
野村委員、藤森委員
○事務局（6人）
岩田総務部長、清水課長、中村室長、西川係長、的場主査、本田主査
- 4 欠席者 西橋委員、平井委員
- 5 傍聴者 なし
- 6 開 会
 - ・岩田総務部長から挨拶
 - ・定足数の確認
 - ・委員紹介
 - ・資料の確認
 - ・会議の公開についての確認
- 7 議 題
 - (1) 長浜市公共施設等総合管理計画のパブリックコメントの実施について
(説明：財産活用政策室)
 - ・資料2、資料3に基づき説明

■質疑応答・意見交換

(委員)

全体的には何も申し分ない。この計画の通り進めていただきたい。

その上で1点、概略版の7ページ④「全庁的な取組体制の構築と人材育成」について、昨年度から、自治体アセットマネジメント研究会を開催し、産学官連携により公有財産を含めてアセットマネジメントについて研究をしている。総務省や国土交通省等の要請に基づき計画の整備を定期的に行っていくことはもちろんだが、問題はその後の実行についてだと考える。アセットマネジメントには専門的な見地を含め、様々な側面から検討する必要があるため、現実的に行政職員だけで検討することは難しいと思う。例えば、公共施設の用途廃止や利活用、公民連携等の民間活力の導入を検討する際の判断基準や分析方法について、外部の有識者を含めた検討委員会を整備することも検討してほしい。

(事務局)

数値目標を達成するための基本方針で、売却、貸付等にあたっては必要に応じ、サウンディング型市場調査や各種専門家（学識経験者、不動産鑑定士、土地家屋調査士等）の方々の意見聴取を行い、財産の最適利用に向けた調査、研究を行うという表現を新たに追記している。

しかし、ご指摘の点については、記載が不足している部分もあるため、その部分については、追記を検討する。

（委員）

計画はしっかり整理されており、内容に関して意見することはないが、公共建築物はまちの風景や景観を司っている部分もあるため、総量縮減ばかりに囚われることなく、魅力あるまちづくりという観点も踏まえて計画を推進してほしい。少子高齢化、人口減少が進む中で、まちの魅力がなくなることは、市の人口が減少する要因となるかもしれない。例えば、公共建築物を整理し利活用しながら、魅力ある未来のまちづくりも同時に目指す等の表現を入れてみてはどうか。

（事務局）

ご指摘のとおり、本計画は適正配置や総量縮減を目指すだけでなく、よりよいまちづくりのための計画であるべきだとも考えている。ご指摘いただいた点について、表現の追記を検討したい。

（委員）

コストカットも重要な点だが、人口減少や人口構成も変わる中で様々なニーズがあると思う。重要なことはコストをかけてでも残すべきかどうか。公共施設の再編はまちづくりのチャンスだと思う。より住みやすいまちを作るためにできるだけ財源を使わない方法はないか、民間の施設を利用しようか等、様々な知恵が絞られていくと思う。厳しい財源の中でもポジティブな思考を持って計画を推進してほしい。

（委員）

個人の持っている文化財を、個人の方が維持できなくなった時に、それを市が買い取るかどうかというような判断がこれまでもあったと思うし、これからも増えていくと思うが、そういった点については、本計画で取り扱うのではなく、文化財の別の計画として取り扱っていくということではいいか。

（事務局）

お見込みのとおり。

（委員）

長寿命化改修することによって、財源がどれくらい浮いてくるのか。

（事務局）

単純な更新（建替）と比較して、約6割程度に抑制できる。

（委員）

長寿命化改修は、予防的修繕だろうが、実際は使用される材料や技術も進歩しており、時代の発展に合わせた長寿命化技術を用いるといった表現を入れる方が市民の方にも理解していただきやすいのではないか。

また、耐震診断や耐震補強については、無理に実施する必要はなく、解体の可能性を検討する等、コストの面も含めて無駄をなくすることが必要だと思う。さらに、昨今地震等の災害が増えているが、できるだけリスクを回避した場所に公共施設を整備する等の記載は不要か。

（事務局）

まず、長寿命化改修の表現については、ご指摘のとおり表現の追記を検討する。
次に、市の防災計画については、他の計画を作って運用をしているが、ご指摘いただいたように、公共施設の整備にあたっては、災害面でできるだけリスクを回避するというような視点は重要だと考えるため、表現の追記を検討したい。

（委員）

各施設の今後の方針について、既に協議が進んでいる施設もあると思うが、その旨が記載されていないが。

（事務局）

今回の改定に伴い、より具体的に今後の方向性を示したかったが、地域や関係者のコンセンサスが十分に得られてないところもあり、施設所管課との協議により、現状の記載内容としている。

（委員）

今後の施設の方針として、あり方を検討とあるが、検討した結果、存続はありうるのか。また、仮に全てが存続となった場合、目標として掲げている削減率は達成できるのか。

（事務局）

あり方を検討した結果、存続もあり得る。仮に、全てが存続になれば目標達成は難しいが、今後の財政負担を考えると、そもそも施設の維持管理に費用をかけることができなくなることが想定される。そうならないようにするため、これまで以上に思い切った適正配置や総量縮減を進める必要があると考えている。

（委員）

適正配置や総量縮減による目標数値を立てるのであれば、あまり含みを持たさない方がよいのではないかと。検討の結果、存続の道があるのではないかと関係者は思ってしまう。このまま全部を維持していくと財政的に長浜市は立ちいかななくなるというのは、もっともっと強く出していただいた方がよいと思う。

（委員）

概要版の 5 ページにある、質の高い資産というのはどのようなものか。

（事務局）

質の高い資産とは、多機能化や複合化等により、市民目線、利用者目線でより使い勝手や利便性が高まっている施設などをイメージしている。例えば、さざなみタウンのような複合施設がわかりやすいかと思う。

（委員）

自分自身も含めて、長浜市民の声が計画に反映されるとよいと感じた。

（委員）

本編 19 ページの公共施設等の分類表に所管部局名も記載してはどうか。
また、地域経営の視点を持ち、民間の類似施設の分析を行ってみてはどうか。

(委員長)

このほか、特に意見等なければ、本日の議題を終了させていただく。

(事務局)

本日、各委員からいただいたご意見・ご指摘を計画に反映させ、パブリックコメントを実施していく。

8 閉 会